

第5回医歯学祭を終えて

医歯学祭実行委員長 歯学科3年 佐藤 理加子

「今年の医歯学祭、楽しかった！」医歯学祭後、友人に言われた一言が非常に嬉しかったのを覚えています。今までの努力が医歯学祭の成功に繋がったのを実感した瞬間でした。

わたしたち医歯学祭実行委員会は医学部・歯学部合同で医歯学祭を作っていきます。医・歯学部が合同で行うようになってから今年で5回目を迎えました。今年度のテーマとして私たちが掲げたのは「SUPREME～至高～」です。医歯学祭はまだまだ発展途上にありますが、医歯学祭を作りあげていく過程で妥協をせず、至高を追及し、今まで以上に満足いただける医歯学祭を目指して、日々の準備を行っていました。

今まで以上の医歯学祭と簡単にはいうものの、それが非常に難しく委員全員で頭をフル回転させて改善策を練りました。今までの医歯学祭でよかったこと、足りなかったことを挙げ、結果的にいくつかの部分で変更することになりました。まず、模擬店の数を去年の倍以上にすること、屋内ステージを設置せず、屋外にふたつステージを作ることにしました。また、今年はアーティストを呼ばずに、「神の手をもつ」と言われている心臓血管外科医の須磨久善先生をお招きし、『医師とは何か、医療とは何か』についてお話いただきました。そして、より広い地域交流を目的とし、全学や他大学のオーケストラ、軽音楽、ダンスの団体をお招きすることとしました。

医歯学祭1日目、模擬店の数を増やしたこと、屋外にふたつステージを設置したことにより、医歯学祭全体に活気が出ていたように感じました。今回の医歯学祭の目玉であるダンス甲子園には、本大学・他大学から約100人に参加していただき

ました。ヒルクライムのバックダンサーの方をはじめ、3人のプロの方々に審査員をしていただき、おおいに盛り上がっていたようでした。

しかしながら、1日目の閉祭直前に土砂降り。模擬店スタッフ、委員がてんやわんやしていたのを覚えています。もしかしたら2日目のステージ設置ができないかもしれないといわれ、委員全員が2日目朝5時に集合し、ステージ設置できるよう準備をしました。

2日目は1日目の土砂降りがうそのような快晴で始められました。2日目の目玉であった須磨先生のご講演には学内だけでなく、高校生や地域の方々からもご参加いただき、有意義なお時間を過ごしていただけたのではないかと思います。

最後になりましたが、第5回医歯学祭を開催できましたのは、前田学部長、顧問の佐伯先生、学務係の皆さま、歯学部関係者の皆さまのおかげだと思っています。誠にありがとうございました。そして、協力してくれた多くの仲間のおかげで今回の医歯学祭を成功することができたと思っています。本当にありがとうございました。



筆者 左から3人目